

第2章 生駒市における地震の危険性

1. 過去に受けた地震被害

過去に近畿地方で被害が大きかった地震は、生駒断層帯や有馬－高槻断層帯、木津川断層帯等の内陸部の活断層を震源とする「内陸型地震」と、東南海・南海沖のプレートの沈み込みによって起こると考えられる「海溝型地震」に区分できます。これらのうち、奈良県内・近傍では、生駒断層帯付近でマグニチュード6級の地震が過去に数回発生した記録が残されているほか、東南海・南海沖で発生した南海地震等のマグニチュード8級の巨大地震において、県内で震度5以上の揺れを記録しています。

近年、国内で発生している阪神・淡路大震災や大阪府北部地震等の内陸型の地震や、東日本大震災の海溝型地震等の大規模な地震は、「いつ」「どこで」発生するかわからない状況にあり、日ごろからの備えが重要です。

図表 国内で発生した近年の大規模な地震被害

発生年	地震名 (マグニチュード)	最大震度	死傷者の状況	住宅被害
平成7年	阪神・淡路大震災 (マグニチュード 7)	7	死者： 6,434人 不明： 3人 負傷者： 43,792人	全壊： 104,906棟 半壊： 144,274棟
平成16年	新潟県中越地震 (マグニチュード 6.8)	7	死者： 68人 負傷者： 4,805人	全壊： 3,175棟 半壊： 13,810棟
平成23年	東日本大震災 (マグニチュード 9.0)	7	死者： 19,729人 不明： 2,559人 負傷者： 6,233人	全壊： 121,996棟 半壊： 282,941棟
平成28年	熊本地震 (マグニチュード 7.3)	7	死者： 273人 負傷者： 2,809人	全壊： 8,667棟 半壊： 34,719棟

(出典：気象庁 HP_過去の地震津波災害)

図表 奈良県の主な地震被害

発生年	地震名 (マグニチュード)	主な震度	死傷者の状況
昭和21年	南海地震 (マグニチュード 8)	・奈良では震度5	負傷者13人
平成7年	阪神・淡路大震災 (マグニチュード 7.3)	・奈良では震度4	負傷者12人
平成16年	東海道沖地震 (マグニチュード 7.4)	・奈良では震度5	負傷者6人
平成30年	大阪府北部地震 (マグニチュード 6.1)	・奈良では震度5弱	負傷者4人

(出典：第2次奈良県地震被害想定調査報告書(H16.10)、奈良県地域防災計画(R2.3))

2. 影響が想定される地震

奈良県の地震被害想定では、奈良県周辺において地震被害を発生させる地震として内陸型の9つの地震と海溝型の地震を想定しています。

本計画でも、次のとおり想定します。

(1) 内陸型地震

内陸型地震では、県地震被害想定調査の対象とされた下図の9つの断層での地震を想定します。

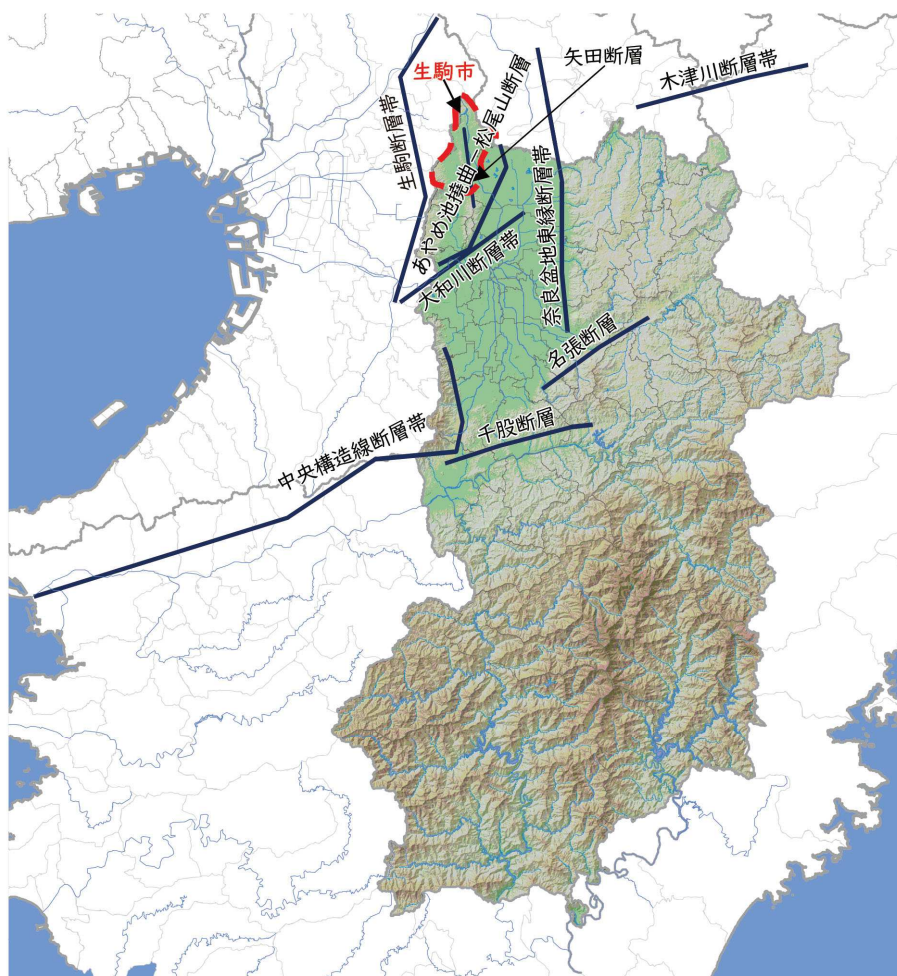
この9つの断層は、市内にある断層の中で比較的地震の発生確率が高いもの、もしくは被害が大きくなると想定される断層です。

※参考：

「生駒市域水理地質図解説書（1万分の1）」（1989年3月、生駒市域水理地質図作成委員会）

「生駒市の総合防災対策に関わる活断層の調査研究(1)～(3)」（1996年3月、財団法人 防災研究協会）

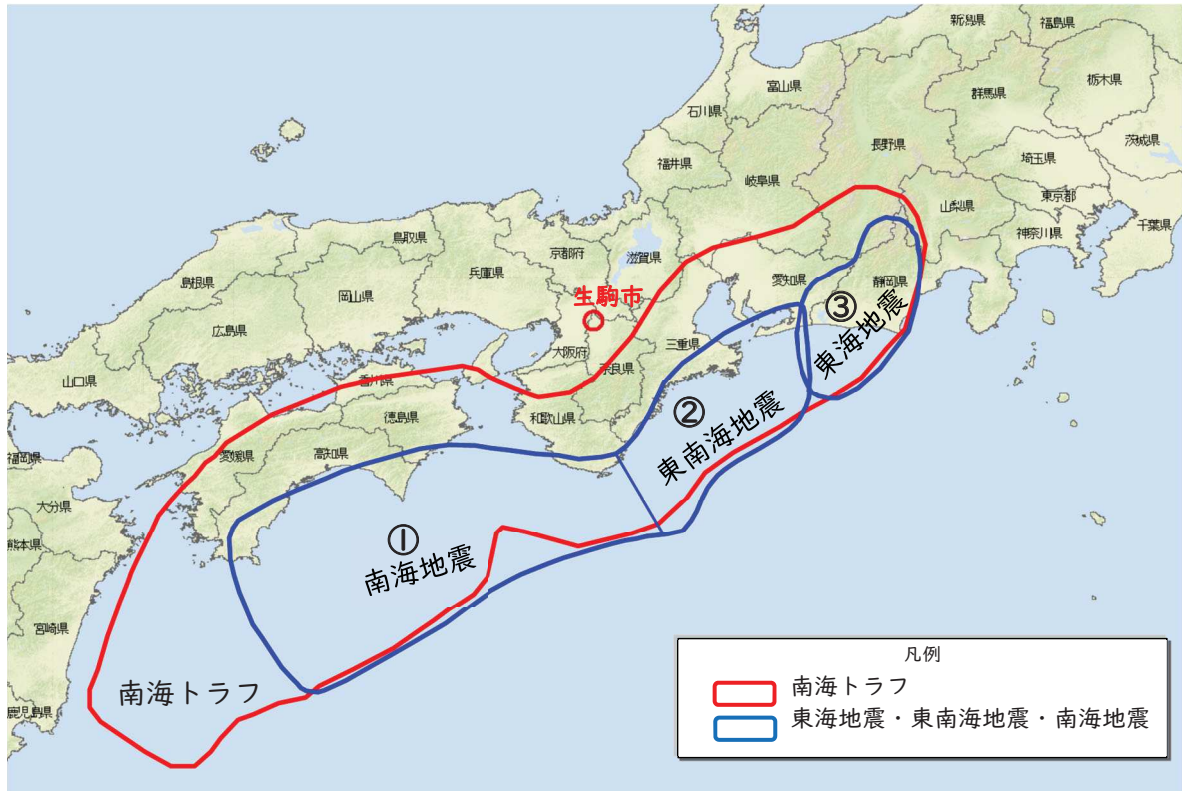
図表 生駒市周辺の断層位置



(2) 海溝型地震

海溝型地震は、中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」で想定された下図①～③の地震の同時発生、及び南海トラフのケースを想定します。

図表 海溝型地震断層エリア

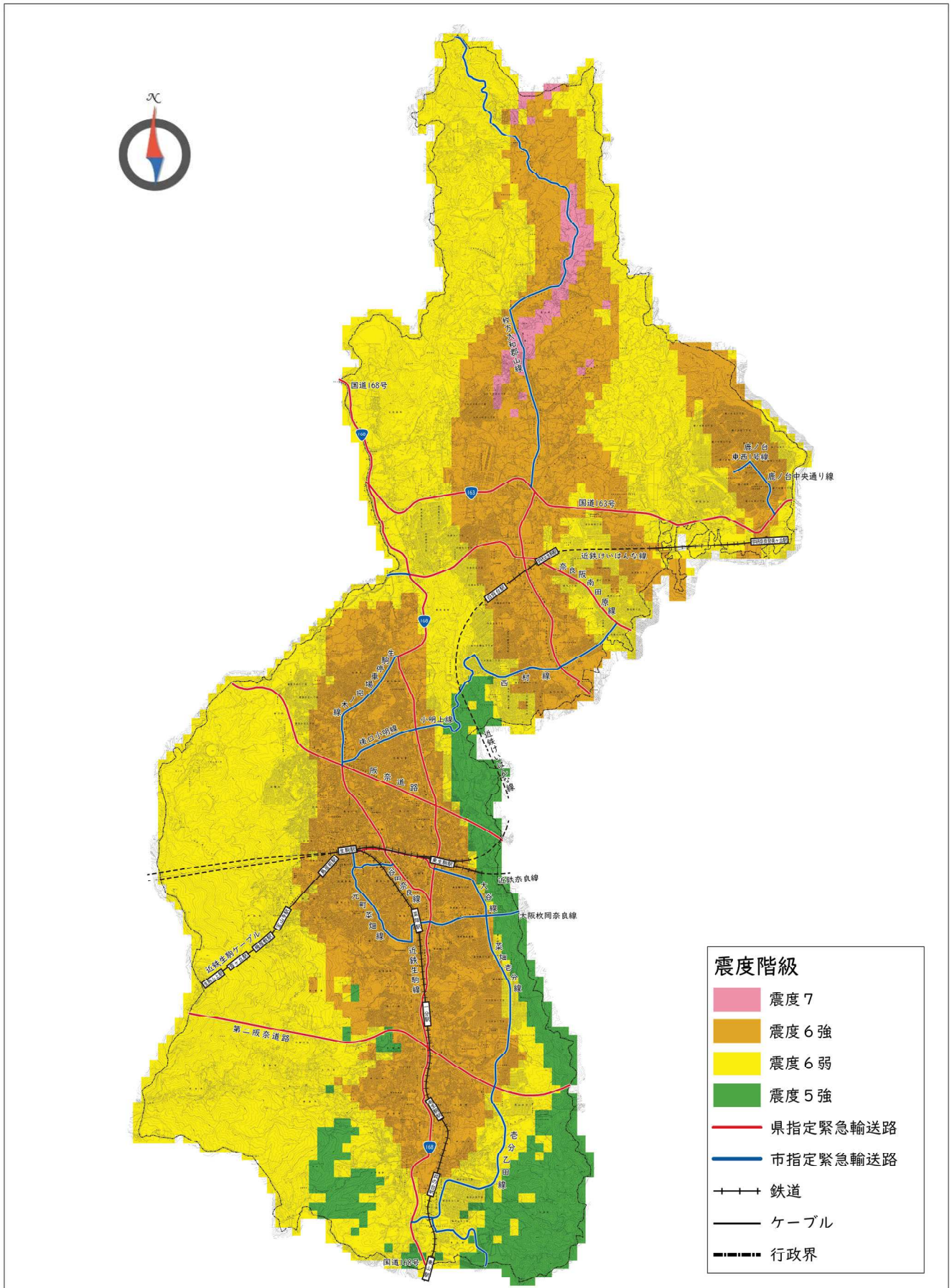


(※参考：中央防災会議資料)

3. 地震による震度予測

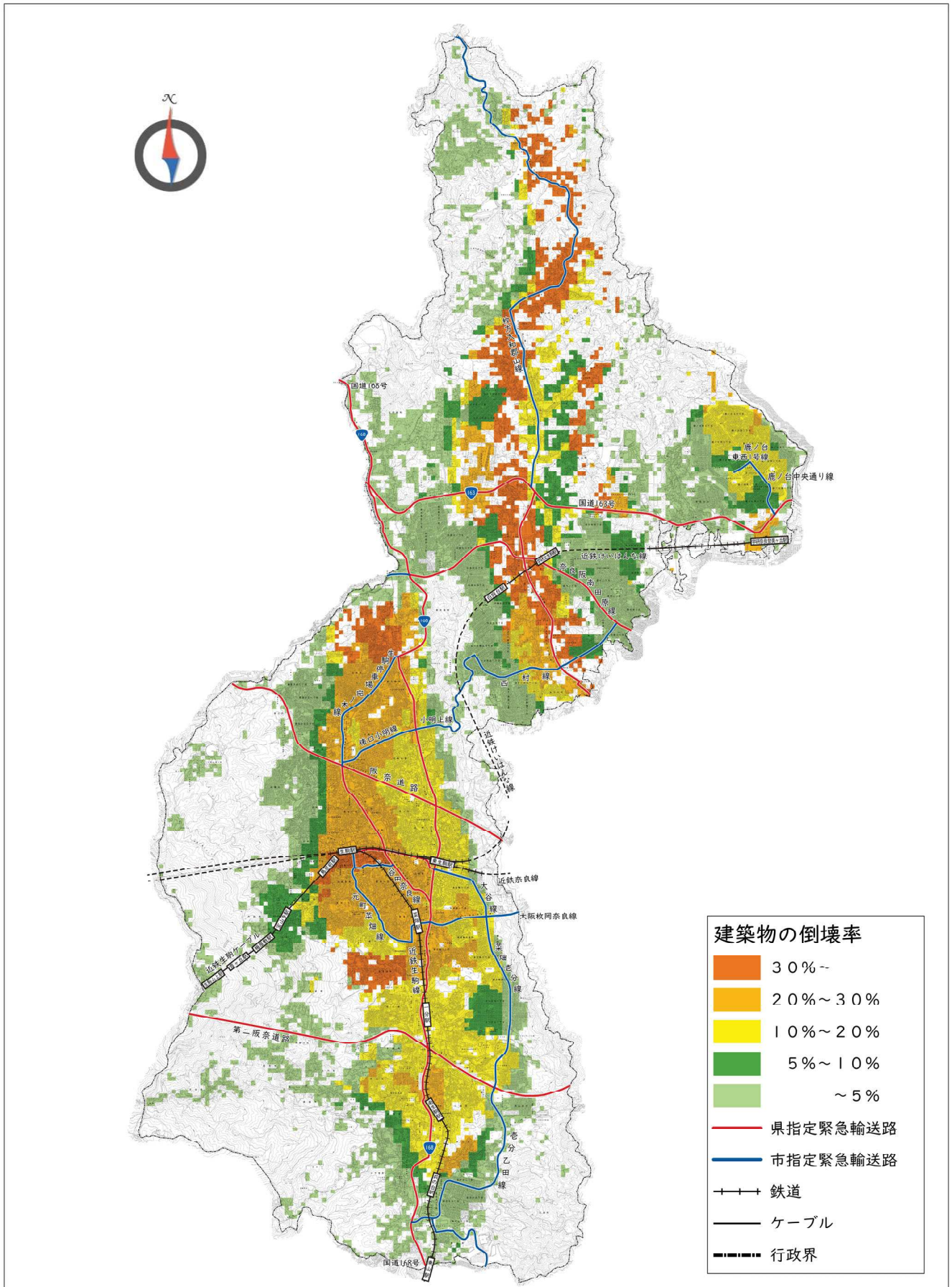
内陸型の断層を震源とする9つの地震と海溝型の地震を検証した結果、生駒市に最も影響が大きかった生駒断層帯を震源とする地震の状況を示した「揺れやすさマップ」と「建物倒壊危険度マップ」を次のページに示します。

図表 地震ハザードマップ（地盤の揺れやすさマップ）



0 500 1,000 1,500 2,000 m

図表 地震ハザードマップ（建物危険度マップ）



0 500 1,000 1,500 2,000 m